

第7回プラチナ大賞で 『Eーフォレスト』が優秀賞

ポラス・アキュラホーム・高砂建設

さいたま市美園地区で進める「スマートシティさいたまモデル」が、第7回プラチナ大賞の優秀賞の「新しい時代のまちづくり賞」を受賞した。2016年からポラスとアキュラホーム、高砂建設が開発する戸建て分譲プロジェクト「浦和美園Eーフォレスト」で、23日に3社は清水勇人さいたま市長を表敬訪問した。

同賞はイノベーションによる新産業の創出などで、地域課題解決に向けた取り組みを称えて発信するもの。総務省と経産省などが後援し、11月5日に全国の自治体・企業47団体

の50件のうち13件がプレゼンし、公開審査・表彰した。13件のなかから、第2期で45戸を分

譲。この環境タウンは低炭素で災害に強く、コミュニティを育む先進的なモデルとして世界基準を目指すもの。第2期のコネクテッドサイトでは、仮想で電力融通の実証事業も始まっている。

清水市長は「さいたま市はスマートシティの海外展開も見据え、ASEANのスマートシティ委員会にも参加して議論してきた。これまでのエネルギー中心のスマートシティから、IoT、AIなど様々な分野の生活サービスも提供していく段階に入ってきた」と語った。

ポラスグループの品川典久中央住宅社長は「今後もワークシヨップを繰り返し、分譲地に住む人に改めて住まい方を理解してもらいたい。契約後の取り組みを重視していきたい」と話した。前田和広アキュラホーム埼玉中央社長は「住宅の断熱気密を高めるため、どうしても高コストの設備に頼りすぎてしま

うが、省エネ促進を目指す必要がある。HEAT20という厳しい基準もクリアしており、

今後の開発にも生かしていきたい」と話した。また高砂建設の風間健社長は「この取り組みの社会的な位置付けを理解し、今後どのような街をつくっていくかという意識を持ちながら普及活動を続けていきたい」と豊直を語った。

現在Eーフォレストは第3期を計画中で、第1期の隣に52戸を分譲予定。第2期は全45棟のうち5棟で電力融通の仕組みを整備したが、第3期では全棟で展開する。売出しは21年年初になりそうだ。



3社は清水市長を表敬訪問した（左から4人目が清水市長）

清水市長は「さいたま市はスマートシティの海外展開も見据え、ASEANのスマートシティ委員会にも参加して議論してきた。これまでのエネルギー中心のスマートシティから、IoT、AIなど様々な分野の生活サービスも提供していく段階に入ってきた」と語った。

ポラスグループの品川典久中央住宅社長は「今後もワークシヨップを繰り返し、分譲地に住む人に改めて住まい方を理解してもらいたい。契約後の取り組みを重視していきたい」と話した。前田和広アキュラホーム埼玉中央社長は「住宅の断熱気密を高めるため、どうしても高コストの設備に頼りすぎてしま

うが、省エネ促進を目指す必要がある。HEAT20という厳しい基準もクリアしており、